
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2009年第36週
(8月31日～9月6日)

- * 2009年9月9日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「梅毒」も掲載しています。

平成21(2009)年9月10日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2009年36週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				全国(診断週)		
		33週	34週	35週	36週	年累計	36週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	58	57	49	39	2786	262	18139
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1 鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ		1			2		7
	細菌性赤痢	3	4			30	1	116
	腸管出血性大腸菌感染症	10	18	29	13	209	170	2499
	腸チフス					10		22
	バラチフス			1		7		15
四類	E型肝炎					6		34
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎			1	3	14	4	91
	エキノコックス症					1		16
	黄熱							
	オウム病					1		15
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサナル森林病							
	Q熱					1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					2		108
	デング熱		1	3	1	17	1	50
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						4	54
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1		1		18		43
野兔病								
ライム病					1		5	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	1	2	3	2	40	10	481	
レプトスピラ症							6	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		33週	34週	35週	36週	年累計	36週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	2	1	4	97	7	546
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)		1		1	27	2	157
	急性脳炎 *2		1	2		17	4	162
	クリプトスポリジウム症					1		12
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		12		87
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					9	2	83
	後天性免疫不全症候群	11	8	8	4	342	7	1001
	ジアルジア症	1				18		53
	髄膜炎菌性髄膜炎					1		9
	先天性風しん症候群						1	1
	梅毒	1	1	9	4	145	7	492
	破傷風				1	5	3	76
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1			10	1	68
	風しん			1		11	1	127
麻しん	1	6			87	6	604	
新型※	新型インフルエンザ ※2 ※3	240	157	61	—	1187	—	4986
2009/9/9計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※新型インフルエンザ等感染症 ※2 2009年4月28日に指定された。2009年4月28日から7月23日の期間は全数届出。

2009年7月24日から8月24日の期間は集団発生事例に関連した届出。

※3全国集計は7月24日6:00現在の国内発生数の累計値(検疫対象者を含まない。)

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 39件 肺結核27件、その他の結核6件、肺結核及びその他の結核1件、無症状病原体保有者5件で、推定感染地は全て国内、年齢は10歳代1件、20歳代3件、30歳代10件、40歳代6件、50歳代9件、60歳代3件、70歳代2件、80歳代5件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 13件 患者5件、無症状病原体保有者8件。血清型・毒素型はO157(VT1VT2)3件、O157(VT2)4件、O157(毒素型不明)1件、O26(VT1)2件、O103(VT1)1件、O111(VT2)1件、O145(VT1)1件で、そのうちO157(VT1VT2)1件及びO157(VT2)1件は同居家族、O26(VT1)2件も同居家族である。年齢は10歳未満3件(うち5歳未満2件)、10歳代1件、20歳代2件、30歳代3件、40歳代2件、50歳代1件、60歳代1件であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 3件 推定感染地はパキスタン1件、ウズベキスタン1件、エジプト1件で、推定感染経路は飲食物による経口感染2件、その他(不明)1件であった。

デング熱 1件 推定感染地はフィリピンである。

レジオネラ症 2件 どちらも肺炎型で、年齢は60歳代1件、70歳代1件。推定感染地はどちらも国内で、推定感染経路は水系感染(温泉)1件、その他(不明)1件である。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 4件 全て腸管アメーバ症で、推定感染地は国内3件、国外1件、推定感染経路は性的接触(同性間)1件、性的接触(異性間)又は経口感染1件、その他(不明)2件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触であった。

後天性免疫不全症候群 4件 AIDS3件、その他1件で、その他の年齢は30歳代、AIDS患者の年齢は30歳代2件、40歳代1件である。全て推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間3件、異性間1件)であった。

梅毒 4件 早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症候1件で、推定感染地は全て国内、推定感染経路は性的接触3件(同性間1件、異性間2件)、その他(不明)1件であった。

破傷風 1件 患者は80歳代で、創傷からの感染が疑われている。

※第35週該当分として、三類 腸管出血性大腸菌感染症 2件(患者:O157VT1VT2、患者:O157VT2)、四類 デング熱 1件(3型、インド)、新型インフルエンザ等感染症 新型インフルエンザ 6件(確定例1件、疑似症5件)

定点把握対象疾患 報告数 2009年36週

定点種別	対象疾患	2009年					報告医療機関数	定点医療機関数
		33週	34週	35週	36週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	15	21	19	27	0.18	149	150
	咽頭結膜熱	14	12	16	9	0.06		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	73	58	59	0.40		
	感染性胃腸炎	218	392	362	422	2.83		
	水痘	44	65	47	44	0.30		
	手足口病	176	168	179	174	1.17		
	伝染性紅斑	14	33	33	29	0.19		
	突発性発しん	78	84	107	88	0.59		
	百日咳	3	1	6	5	0.03		
	ヘルパンギーナ	183	166	178	169	1.13		
	流行性耳下腺炎	80	102	109	77	0.52		
	不明発しん症 (注1)	29	25	18	21	0.14		
MCLS(川崎病) (注1)	1	0	2	1	0.01			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	550	737	856	1,057	3.66	289	290
眼科	急性出血性結膜炎	0	0	1	1	0.03	38	39
	流行性角結膜炎	6	17	18	12	0.32		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	1	0	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	1	1	2	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	5	6	6	0	0.00		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0	0	0	0.00		
2009/9/9集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。しかし今年に入ってから過去5年平均と比較して高いレベルで推移している。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は9週連続して増加した。感染症法施行(1999年)以来、同時期としては最も報告数が多く、注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

中野区保健所管内定点医療機関

- ・RSウイルス感染症:RSVは施設内発症です。

*インフルエンザに関するコメントは13-14頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2009年36週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	7			7		2		5		1
～11か月	3	2		37	3	18	1	33		11
1歳	9	3	1	69	11	49		41		70
2歳	5	1	3	46	8	37	5	7		28
3歳	3		6	34	10	24	4	2	1	21
4歳		1	5	26	4	16	5			17
5歳		1	13	21	4	18	1		1	2
6歳			9	16	1	9	4			3
7歳		1	5	27	1		2			8
8歳			3	14			1			
9歳			1	12			5			2
10～14歳			9	59	1				1	
15～19歳			1	9						
20～29歳			3	45	1	1	1		2	6
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	27	9	59	422	44	174	29	88	5	169
先週比	8	-7	1	60	-3	-5	-4	-19	-1	-9

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		4		1		
～11か月		4		6		
1歳	5	5	1	18		
2歳	4	3		22		
3歳	9			28		
4歳	11	1		32		
5歳	18			54		
6歳	6	1		62		
7歳	6	1		56		
8歳	4			41		
9歳	3			65		
10～14歳	7	1		280	1	1
15～19歳	1			150		
20～29歳	3	1		96		4
30～39歳				71		2
40～49歳				46		1
50～59歳				18		2
60～69歳				8		1
70～79歳				2		1
80歳以上				1		
合計	77	21	1	1057	1	12
先週比	-32	3	-1	201		-6

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2009年36週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	0	0

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2009年36週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	1					5				
中央区				7		1	1	1		
みなと	2	4	1	17		10	1	6	1	11
新宿区			2	16	2	4		1		3
文京				3		3	1			1
台東	7		2	17		10	2	2		1
墨田区				5		9	1	1		3
江東区				45	2	12		7	1	6
品川区				18		7	1	4		5
目黒区				3			1	3		
大田区	2	2	2	26	2	16		4	1	5
世田谷		1		20		2		5		8
渋谷区			2	9		3				4
中野区	2		4	16	1	1			1	15
杉並				39		7	1	4		
池袋				7	1	1				6
北区			3	1	1	4		2		1
荒川区	7			6		4	1	1		2
板橋区	1		1	14	1	6	1	3		
練馬区	1		3	6	1	14		7		9
足立			2	16	2	5		2		1
葛飾区			3	10	5	7	1	2		4
江戸川				13	3	10	4	3		19
八王子市	1	1	11	36	4	7	2	12		10
西多摩			1	7	5	3				1
南多摩		1	1	14	2	7	1	1		12
町田			15	22	3	5	4	6		26
多摩立川				4	2	3			1	1
多摩府中			1	6	1	5	2	4		5
多摩小平	3		5	19	6	3	4	7		9
島しょ										1
東京都合計	27	9	59	422	44	174	29	88	5	169

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2009年36週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田		2		6		
中央区				13		1
みなと	2		1	32		
新宿区		6		58		3
文京				23		
台東				13		
墨田区	2			11		
江東区	4	2		35		
品川区	4			38		
目黒区				20		
大田区	3	1		47		
世田谷	1			79		
渋谷区				17		
中野区	4			59		
杉並				49		1
池袋				18		1
北区	1			28		
荒川区	1			10		1
板橋区	2			39		
練馬区	1	1		48		1
足立	3	1		22	1	1
葛飾区	3	3		51		
江戸川	3			81		
八王子市	7	2		54		
西多摩	13			19		
南多摩	2			21		1
町田	12	3		35		
多摩立川	4			46		2
多摩府中	2			50		
多摩小平	3			35		
島しょ						

東京都合計	77	21	1	1,057	1	12
-------	----	----	---	-------	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	0	0
-------	---	---

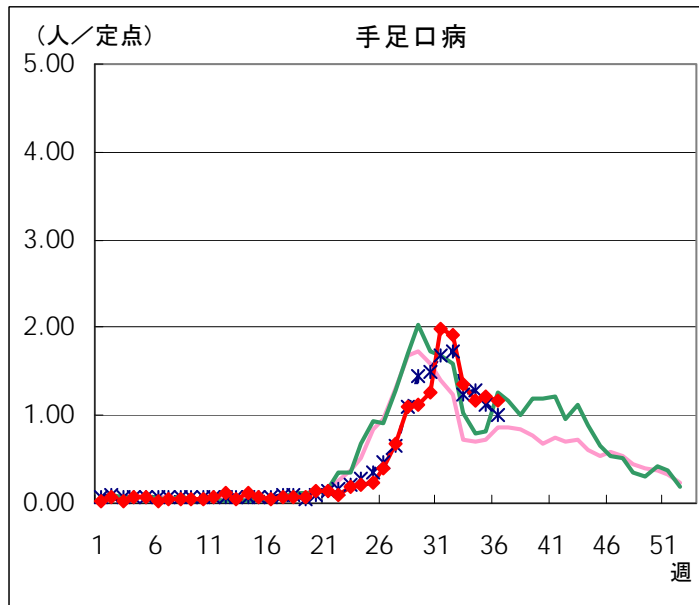
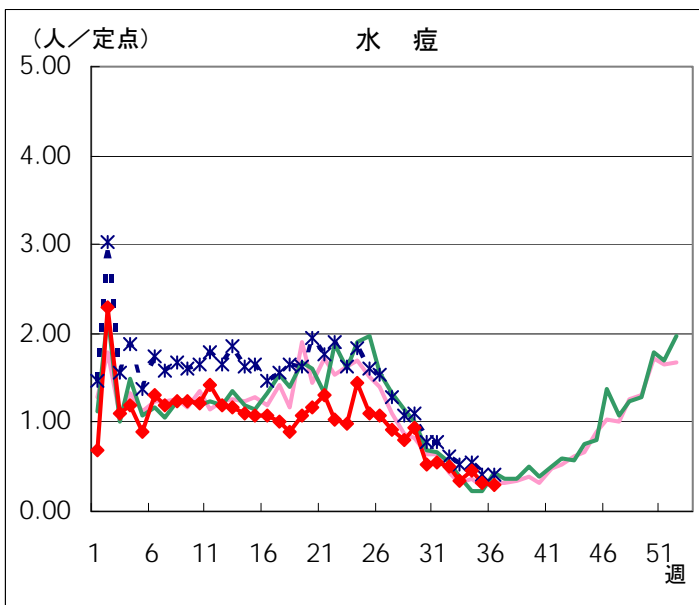
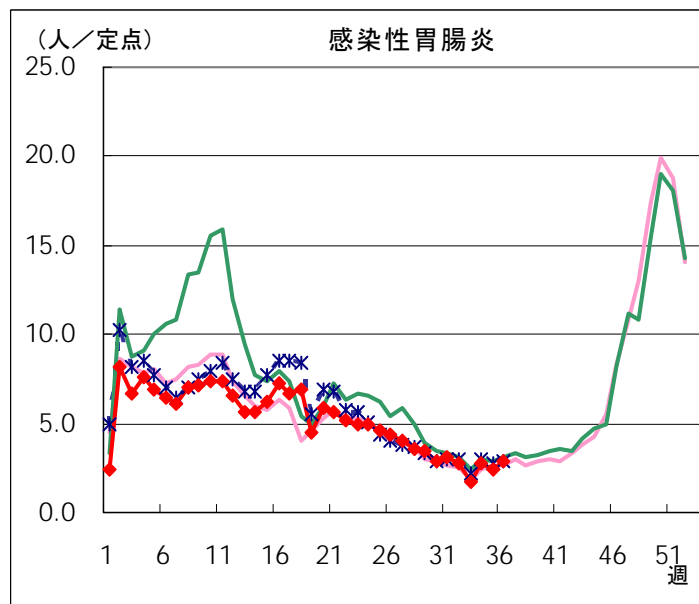
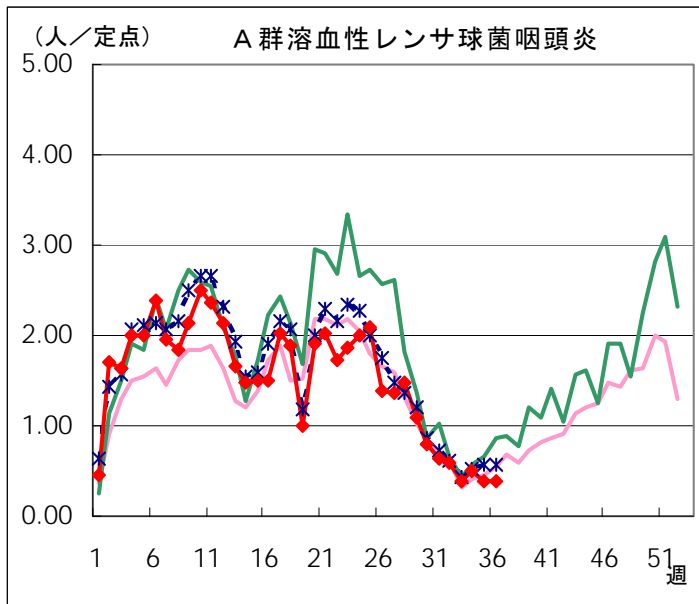
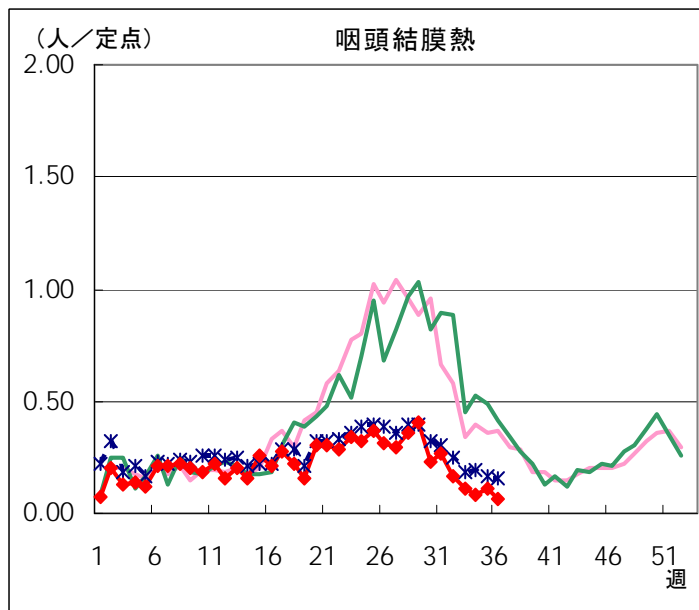
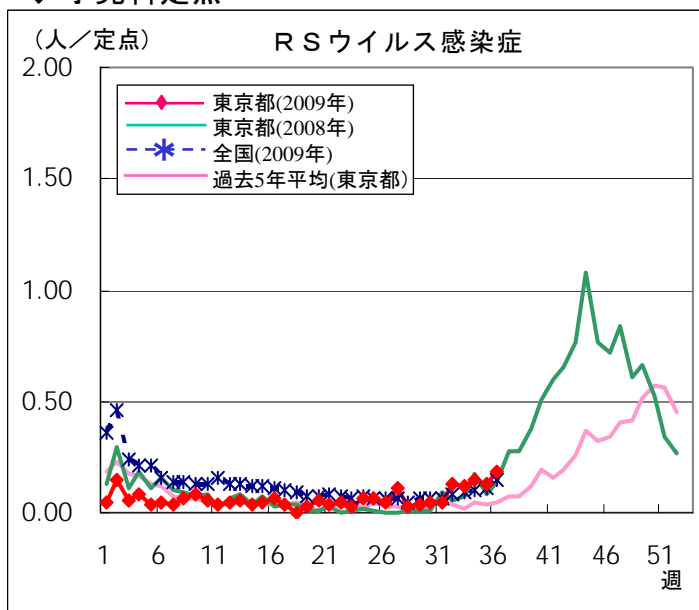
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2009年36週

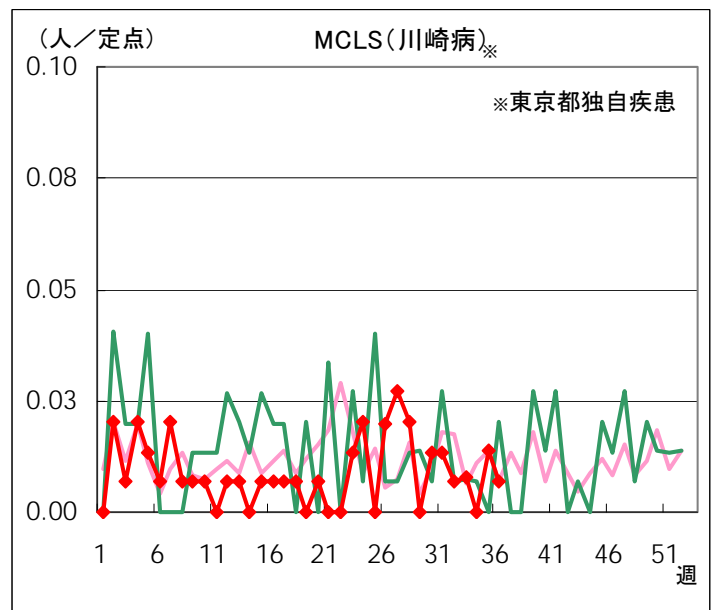
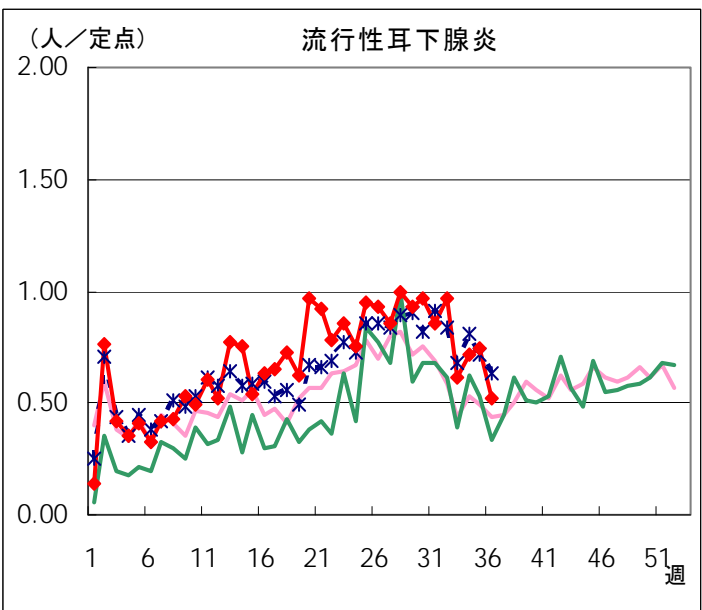
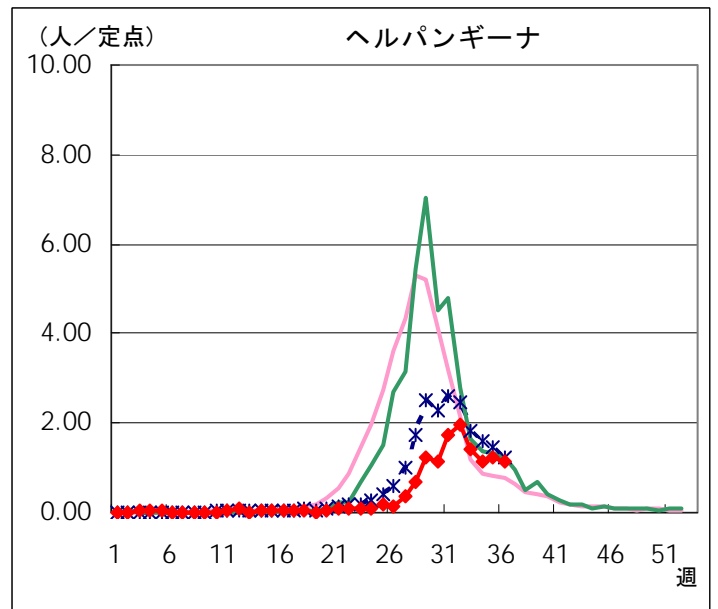
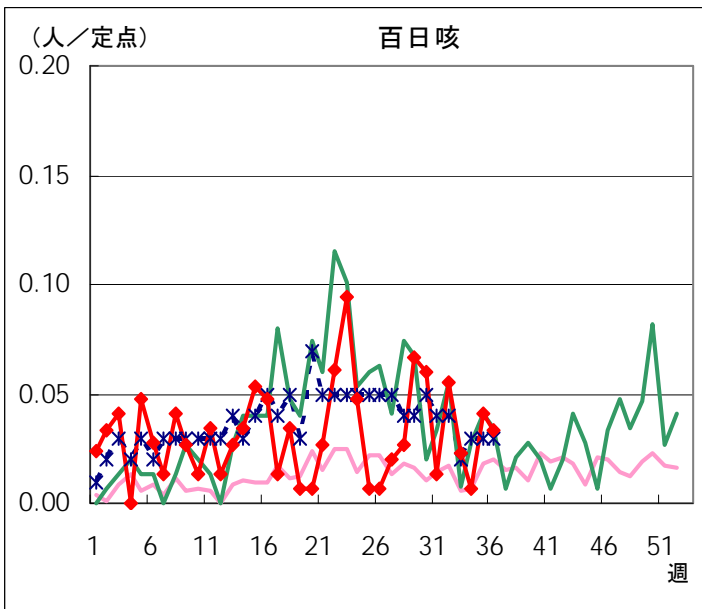
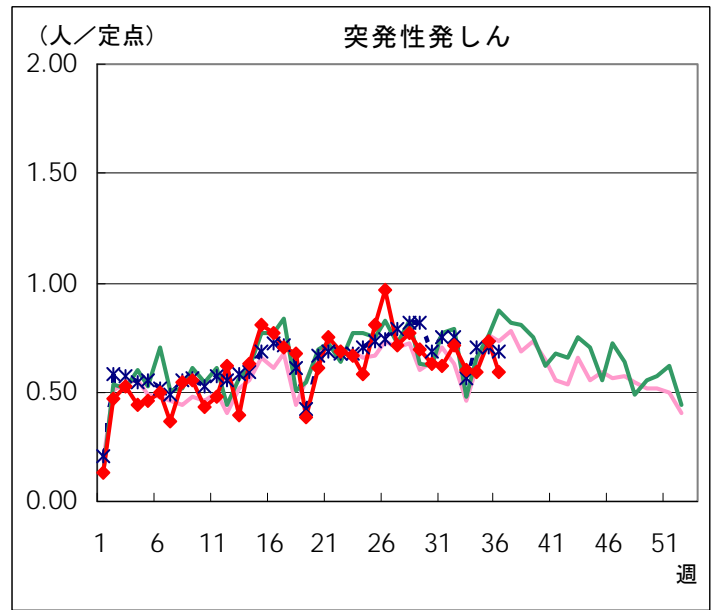
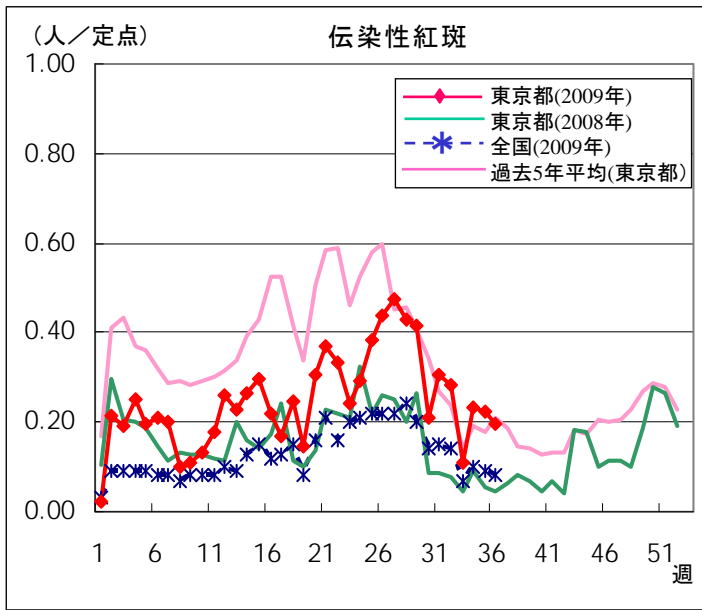
定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	0.25					1.25				
中央区				2.33		0.33	0.33	0.33		
みなと	0.33	0.67	0.17	2.83		1.67	0.17	1.00	0.17	1.83
新宿区			0.33	2.67	0.33	0.67		0.17		0.50
文京				1.00		1.00	0.33			0.33
台東	2.33		0.67	5.67		3.33	0.67	0.67		0.33
墨田区				1.67		3.00	0.33	0.33		1.00
江東区				11.25	0.50	3.00		1.75	0.25	1.50
品川区				3.00		1.17	0.17	0.67		0.83
目黒区				1.00			0.33	1.00		
大田区	0.22	0.22	0.22	2.89	0.22	1.78		0.44	0.11	0.56
世田谷		0.13		2.50		0.25		0.63		1.00
渋谷区			0.50	2.25		0.75				1.00
中野区	0.33		0.67	2.67	0.17	0.17			0.17	2.50
杉並				6.50		1.17	0.17	0.67		
池袋				1.40	0.20	0.20				1.20
北区			0.75	0.25	0.25	1.00		0.50		0.25
荒川区	3.50			3.00		2.00	0.50	0.50		1.00
板橋区	0.17		0.17	2.33	0.17	1.00	0.17	0.50		
練馬区	0.20		0.60	1.20	0.20	2.80		1.40		1.80
足立			0.40	3.20	0.40	1.00		0.40		0.20
葛飾区			0.75	2.50	1.25	1.75	0.25	0.50		1.00
江戸川				2.60	0.60	2.00	0.80	0.60		3.80
八王子市	0.25	0.25	2.75	9.00	1.00	1.75	0.50	3.00		2.50
西多摩			0.20	1.40	1.00	0.60				0.20
南多摩		0.25	0.25	3.50	0.50	1.75	0.25	0.25		3.00
町田			3.75	5.50	0.75	1.25	1.00	1.50		6.50
多摩立川				0.67	0.33	0.50			0.17	0.17
多摩府中			0.11	0.67	0.11	0.56	0.22	0.44		0.56
多摩小平	0.50		0.83	3.17	1.00	0.50	0.67	1.17		1.50
島しょ										1.00
東京都	0.18	0.06	0.40	2.83	0.30	1.17	0.19	0.59	0.03	1.13

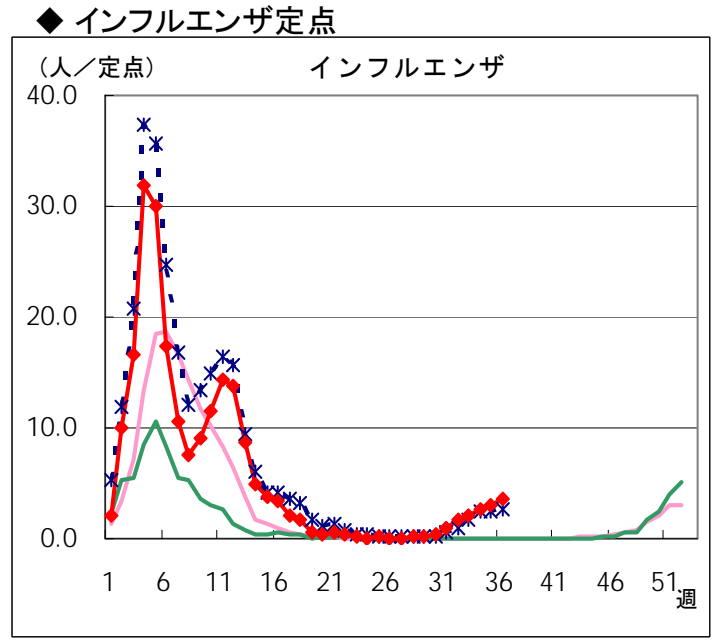
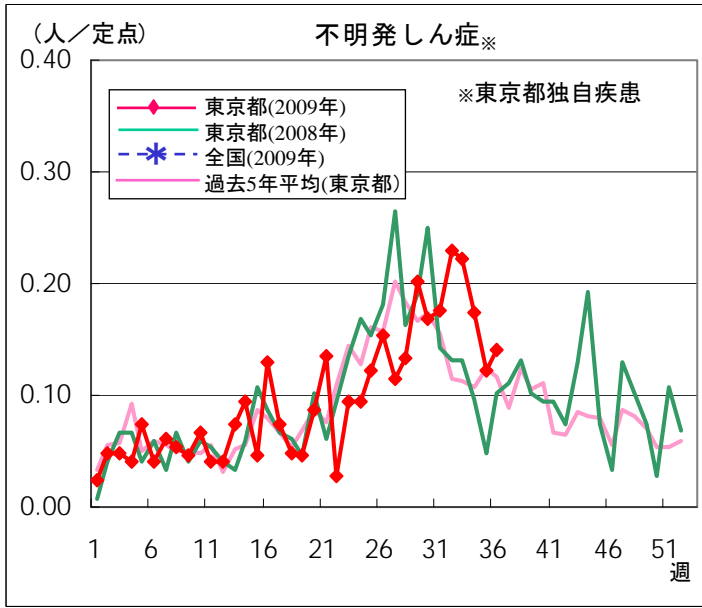
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田		0.50		1.20		
中央区				3.25		1.00
みなと	0.33		0.17	4.00		
新宿区		1.00		6.44		1.50
文京				4.60		
台東				2.60		
墨田区	0.67			1.83		
江東区	1.00	0.50		3.89		
品川区	0.67			3.80		
目黒区				3.33		
大田区	0.33	0.11		2.94		
世田谷	0.13			4.94		
渋谷区				2.83		
中野区	0.67			6.56		
杉並				4.08		1.00
池袋				2.25		
北区	0.25			3.50		
荒川区	0.50			2.50		1.00
板橋区	0.33			3.25		
練馬区	0.20	0.20		4.00		0.50
足立	0.60	0.20		1.83	0.50	0.50
葛飾区	0.75	0.75		5.67		
江戸川	0.60			6.75		
八王子市	1.75	0.50		5.40		
西多摩	2.60			2.11		
南多摩	0.50			2.33		1.00
町田	3.00	0.75		3.89		
多摩立川	0.67			3.54		1.00
多摩府中	0.22			2.50		
多摩小平	0.50			2.50		
島しょ						
東京都	0.52	0.14	0.01	3.66	0.03	0.32

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2009年36週現在

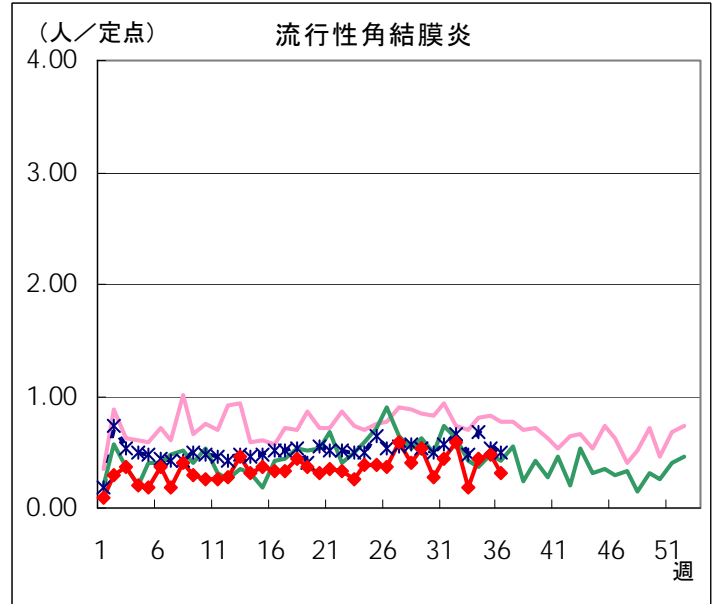
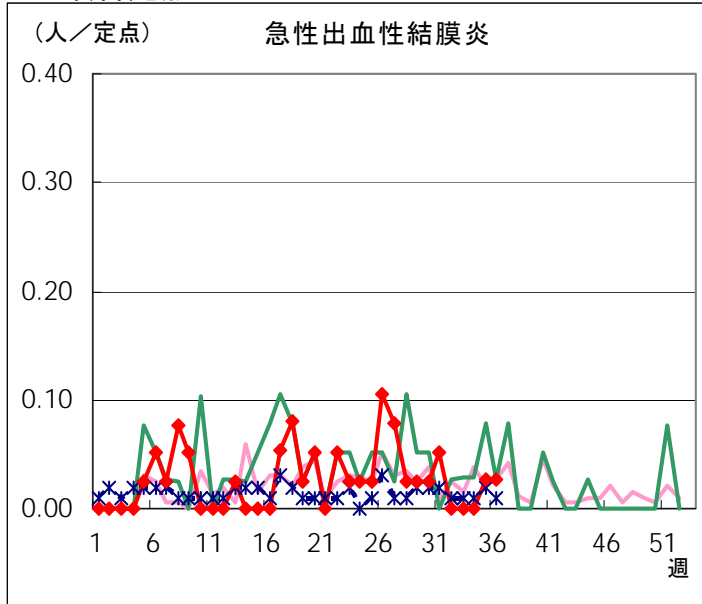
◆ 小児科定点



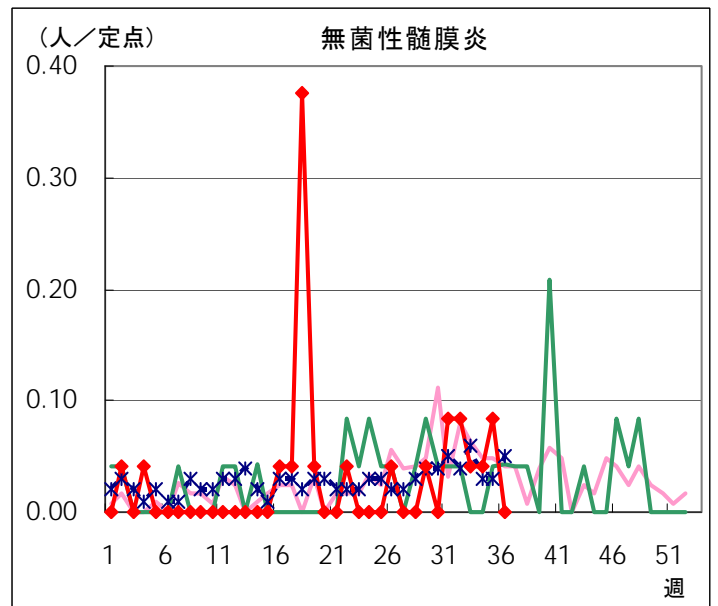
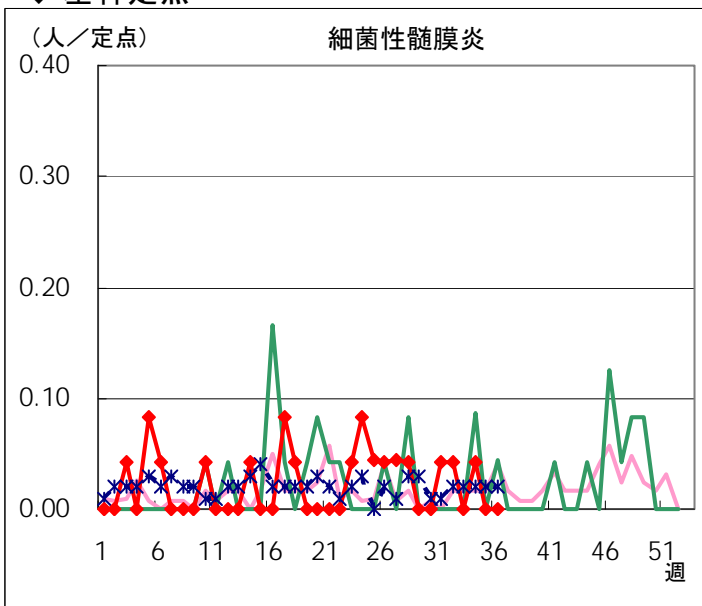


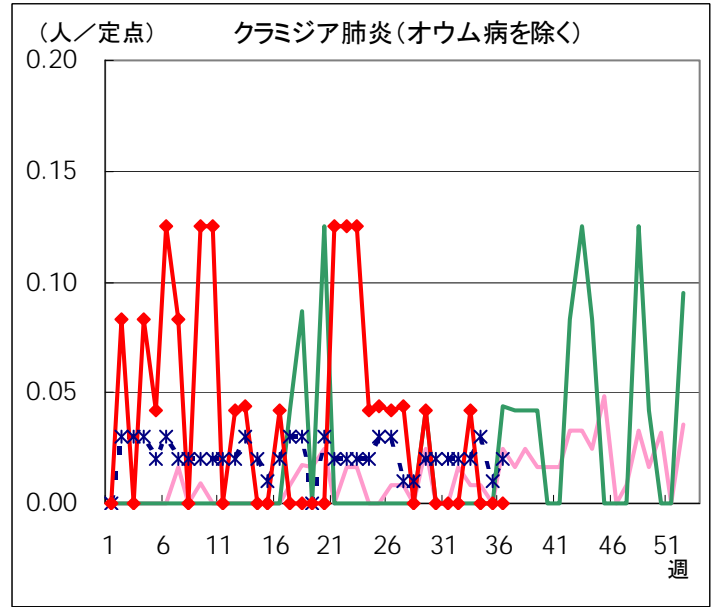
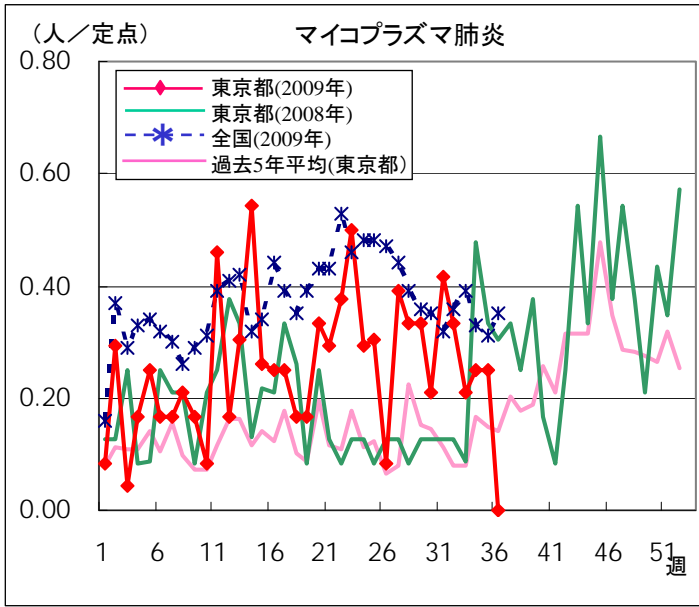


◆ 眼科定点

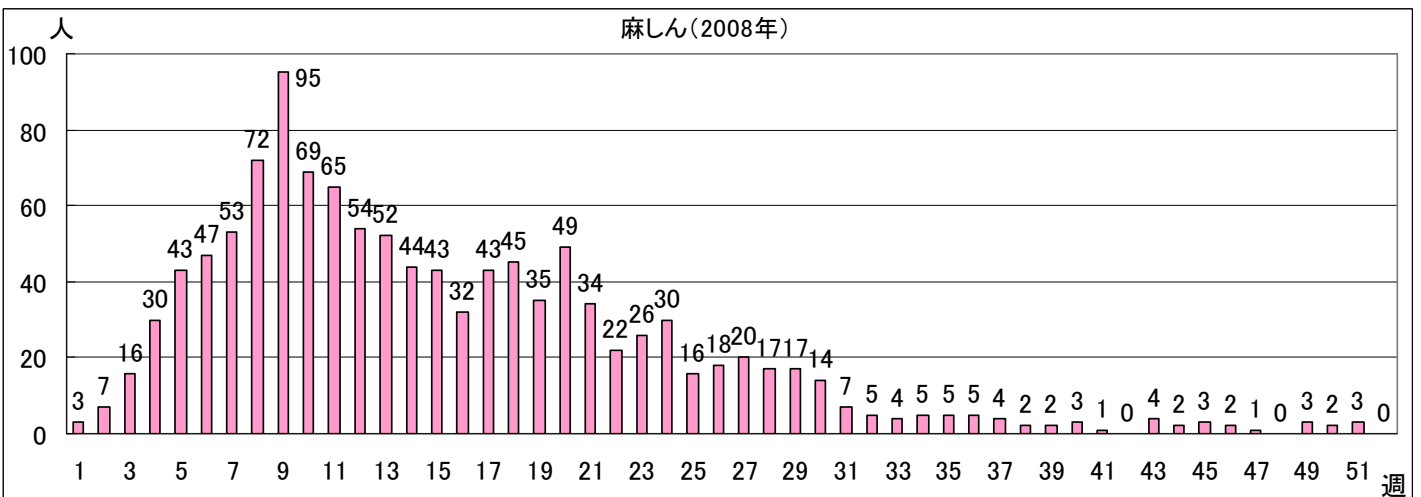
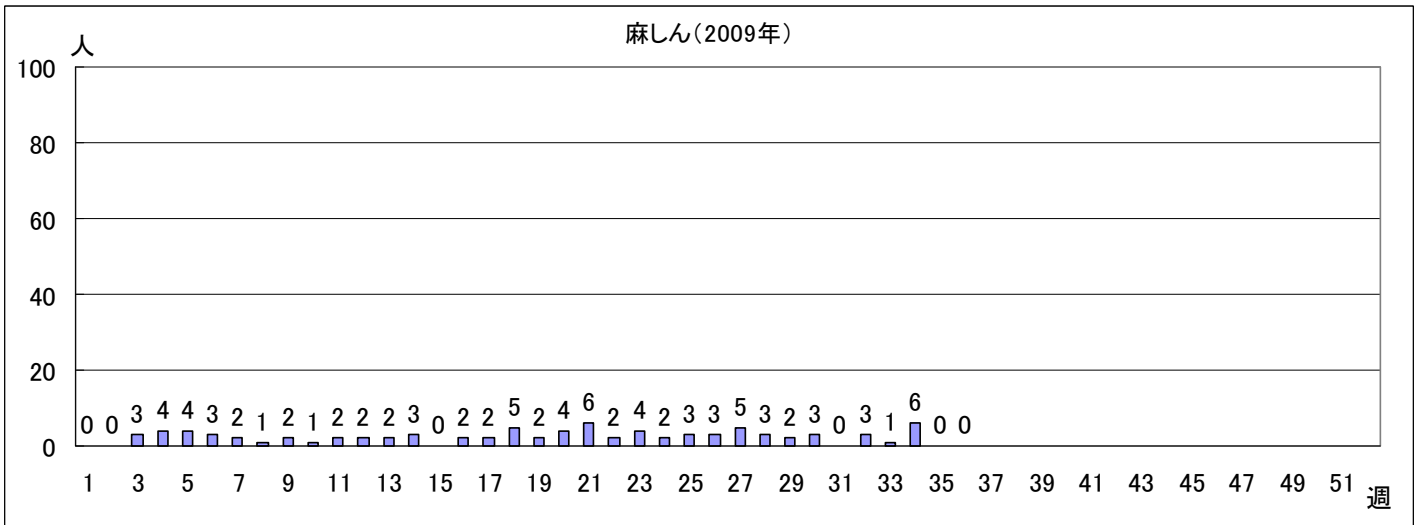


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2009年36週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと	4		6歳、11歳、14歳、15歳。
	12		インフルエンザ12名全てA型。うち、近隣小学校6年生で5名発生。
新宿区	9		
	3		
	4		
江東	3		
	1		
	11	1	2歳児はB型。他すべてA型。
	1		
品川区	5		
	7		
	1		
目黒区	3		
	14		
	3		
大田区	3		
	4		
	1		14歳児。
	1		8歳児は当クリニックでインフルエンザテスト(-)でしたが、重症化し他院受診、インフルエンザテスト(+)でした。この間3~4時間位でした。
世田谷区	2		
	2		
	1		
	2		
中野区	1		検査は陰性だが臨床所見より(家族内陽性、学級閉鎖の生徒を含む)4名診断。
	1		
	20		
	9		
	6		
	1		
	5		
	8		
3			
池袋	6		
	5		臨床症状による診断1名。
北区	2		
			患者14名。インフルエンザによる休校の生徒が主です。
	2		
	8		
	2		

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
西多摩	4		
	9	1	
南多摩	7		
	3	1	7歳児のみB型。
町田	1		
八王子市	12		
	2		
	9		
	16		

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/3	急性腸炎	11	糞便	カンピロバクター・ジェジュニ	分離同定
8/6	急性腸炎	48	糞便	カンピロバクター・ジェジュニ	
8/17	中耳炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
8/20	脳炎	64	髄液	単純ヘルペスウイルス1型	
8/20	髄膜炎	13	髄液	ムンプスウイルス	
8/20	デング熱	31	血液	デング熱ウイルス抗体	抗体
8/21	インフルエンザ疑い	1	鼻汁	エンテロウイルス	遺伝子
8/22	流行性耳下腺炎、髄膜炎	9	髄液	ムンプスウイルス	
8/22	肺炎球菌性気管支炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/24	ヘルパンギーナ	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/24	発しん	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/24	咽頭炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
8/24	喘息性気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス	
8/24	不明熱	5	鼻汁	エンテロウイルス	
8/24	不明発しん	6M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/26	髄膜炎	10	髄液	ムンプスウイルス	
8/26	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/26	不明発しん症	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
8/27	胃腸炎、心筋炎、腎機能障害	3	咽頭拭い液	ライノウイルス	
8/27	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
8/28	インフルエンザ疑い	3	鼻汁	エンテロウイルス	

◇定点医療機関から搬入された検体の遺伝子検査法による亜型

亜型検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)
35週	1	2	0	25
今シーズン累計	224	113	102	109

*AH1pdm: 新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/HINI)

病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2009年							
		28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週
ウイルス	アデノウイルス	4	6	4	4	3	4	4	1
	ライノウイルス	4	6		1	1			2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	16	5	5	18	6	2	11	10
	単純ヘルペスウイルス	5		1					1
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	5	3	1	6	2	4	4	3
	EBウイルス	4	3	1	2		1	1	
	サイトメガロウイルス		1			1	1	1	
	ムンプスウイルス	1	5	3	2	1	1	2	
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19	1			1	1			
	RSウイルス			1	1		1		
	ノロウイルス				1				
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								1
	インフルエンザウイルスAH3								2
	インフルエンザウイルスB								
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	1	3		18	21	16	25	25	
デングウイルス(抗体を含む)							1	1	
その他のウイルス	13	1	9	3					
細菌	カンピロバクター								2
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌	1				3			
	その他の細菌	2			2	3			
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2009年28週～2009年35週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	131	33	68	30	74	5	6	7	6	15	1	29	10		2		149	
ウイルス	アデノウイルス	1	6	5	2	1		5		2		1	1				5	
	ライノウイルス			4	1							2	2				4	
	ポリオウイルス			1													1	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	3	10	6	2	12	1		1	11		9	1				17	
	単純ヘルペスウイルス		3						2	1								1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7		2	3						1		9	1					12
	EBウイルス		2						1			2	5					2
	サイトメガロウイルス									1		1						2
	ムンプスウイルス					7								6				2
	麻疹しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											1	2					
	RSウイルス			3														
	ノロウイルス				1													
	ロタウイルス																	
インフルエンザウイルスAH1	1																	
インフルエンザウイルスAH3	2																	
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	104	1	3														1	
デングウイルス(抗体を含む)																	2	
その他のウイルス		6	13	1		1											5	
細菌	カンピロバクター				2													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌							3									1	
その他の細菌		2	2	1			1										1	
その他の病原体																		

<感染症豆知識>

梅毒

梅毒は *Treponema pallidum* (TP) による、性行為または類似の行為で感染する性感染症 (STD、STI) である。皮膚、粘膜の発しんや臓器梅毒の症状を呈する顕症梅毒と、症状は認められないが梅毒血清反応が陽性の無症候梅毒、および先天梅毒があり、感染症法では全数報告の五類感染症で7日以内に保健所へ届け出が必要 (陳旧性梅毒は除く)。

早期梅毒ではⅠ期梅毒 (3ヵ月迄) は感染後約3週間で感染局所 (好発部位: 男性冠状溝、女性小陰唇) に初期硬結、硬性下疳 (粘膜潰瘍) がみられ、所属リンパ節腫大をきたす。3ヵ月後に出現するⅡ期梅毒 (3年迄) は、TPが血行性に全身に散布され、皮膚、粘膜の発しん (丘しん、バラしん、乾癬) や扁平コンジローマ (肛囲、外陰部)、脱毛など多彩な臨床像を示す (感染力のあるのはⅡ期梅毒迄)。

晩期梅毒は感染後3年以上を経過し、ゴム腫 (慢性肉芽腫) を主徴とするⅢ期梅毒 (10年迄) と、血管・神経梅毒 (大動脈瘤、脊髄癆、進行麻痺) を主徴とするⅣ期梅毒 (10年以上) に分けられるが、現在これらの患者に遭遇する機会はほとんどみられない。同じく先天梅毒も稀な疾患である。なお、近年HIV感染に併発した梅毒に留意する必要がある。

診断のポイントである梅毒血清反応の検査はSTS法 (RPR法、凝集法) とTP抗原法 (TPHA法、FTA-ABS法) を施行し、陽性の場合にはSTS法の定量を行う (Ⅰ期ではパーカーインク法での鏡検も可能)。無症状病原体保有者の場合、届出に必要な希釈倍数は16倍以上である。STS法は治療による抗体価の低下が早い (治癒判定は8倍以下)。

治療はペニシリン系薬剤 (経口ペニシリン、ペニシリンGカリウム注) が第一選択薬であるが、近年欧米ではマクロライド耐性株も報告されている。

(文責 (財) 性の健康医学財団 理事長 松田静治)